

会 議 録

会 議 の 名 称	平成21年度 第4回地域協議会
開 催 日 時	平成22年1月18日 午後3時00分から
開 催 場 所	福祉会館2階「大会議室」
出 席 者 氏 名	委員 (19名) 小沼文夫、佐藤政一、佐藤允尚、佐々木知栄、佐藤系悦、佐藤伸一、 佐藤公、土田克夫、土田長夫、土田典子、原田浩司、茂木美寶子、 伊豆秀一、小番けい子、佐藤寿美子、佐藤孝義(副会長)、佐藤久美、 佐藤嘉孝、豊島一郎、 由利本荘市 (10名) (本庁) 理事 猿田正好 (矢島総合支所) 総合支所長 細谷正幸、福祉保健課長 伊東幹雄、市民課長 三浦芳文 産業課長 伊豆葵、建設課長 工藤一男、教育学習課長 佐藤勝一 (事務局・・・振興課) 主査 加川洋、主査 三浦利彦、主事 佐々木有希子
欠席委員氏名 (9名)	五十嵐徳、佐藤洋一、土田稔、正木正、大井仁史、小番より子、 茂木昭二郎、茂木保、岸田良子
会議次第 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 由利本荘市理事あいさつ 4. 協議 ○地域づくり推進事業について 5. その他 6. 閉会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

平成21年度 第4回地域協議会

1. 開 会 15:30～（進行：矢島総合支所長）

2. 会長あいさつ（会長欠席のため副会長が代理）

●佐藤副会長

皆さん新年明けましておめでとうございます。ただ今お話がありましたが、会長より皆さんへやむを得ず欠席することのお詫びを申し上げておりましたので、どうぞご了承いただきたいと思います。今日は第4回目の地域協議会ということで、猿田理事さんを初め、各課長さん方、委員の皆さんにご出席いただきまして開催できますことに心から御礼を申し上げます。事業計画からいきますと今回が最終の地域協議会となるのかなと思います。事務局から22年度の予算説明等がもし発生すれば、また地域協議会が開催されるだろうと思いますが、一応は本日が最終になるかと考えております。この中で再三皆さん方に協議していただきました地域づくり推進事業についても最終の詰めを行って、皆さんの方からご賛同いただき、22年度の地域の活性化のために、矢島地区の活性化のために、事業推進に邁進していきたいと考えております。皆さんのご意見を参考にしながら、進めていきたいと思っておりますので、今日はよろしくお願いいたします。会長に代わりまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。

3. 由利本荘市理事あいさつ

●猿田理事

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。副会長さんからもお話がありましてとおり。今日が4回目の地域協議会となります。他の地域の状況は概ね、3回目が終わった所もありますが、今月中に3回目を予定しておられる地域がほとんどです。本日の資料も見させていただきましたが、皆さんからご提案いただいた内容に基づいて幹事の皆さんがご難儀をされながら、あるいは皆さんの投票の結果を参考にして、資料をお作りいただいているようです。せっかく皆さん方が頭を一生懸命悩ませて、練って提案いただいた事業ですので、今回平成22年度の事業実施からははずれてしまったものもあるかもしれませんが、そういったことはお許しをいただきながら、あるいは次年度以降でといったことでもよろしいと思いますし、皆さんでご審議いただければと思います。以上でございます。

4. 協議

○地域づくり推進事業について（～振興課長 土田武弥）

前回の地域協議会で、皆さんからご提案いただきましたものを一覧表で出しましてその中から突出したものを決められれば良かったのですが、なかなか決めかねるというご意見もあり、最終的には皆さんのご意見の中で各自5事業を投票で選出することとなりました。その投票結果を幹事会で協議して、ある程度集約した形で今回の地域協議会で提案するという方向にしておりました。それをもちまして、昨年12月18日午後6時から幹事会を開催いたしまして、集約させていただきました。この内容について、担当からご説明を申し上げます。

以下、【資料1】に基づき説明。（～振興課振興班 三浦主査）

◆地域づくり推進事業アンケート結果（票数順）◆

①夏まつり②ひなめぐり③鳥海山ろく線を利用した交流事業④友好都市との交流⑤八朔祭り⑤鳥海高原（ももの）菜の花まつり⑦駅前花壇の整備⑧鮎に関わる事業⑧地球温暖化防止推進活動（BDF燃料）⑧矢島スキー場で雪遊びイベント⑩見どころ案内人

●佐藤副会長

事務局からご説明いただきましたが、12月3日の第3回地域協議会においてなかなか事業決定ができない、ということから委員の皆さんから5事業ずつ選択していただき、その上位なりを基に幹事会で協議するということで了解をいただき、皆さんから投票していただきました。そして集計をしまして上位10事業を挙げるつもりでしたが、同票数事業があるということで、11事業を本日皆さんにご提示し、ご意見を伺いたと思います。一応幹事会ではこの11事業を採択し、22年度の地域づくり推進事業として挙げたいと思っております。皆さんにこれについての採択をお願いしたい次第であります。これが決定されますと、その後の予算内容については各主催団体との事業計画その他、ヒアリングを行いながら予算配分をしたいという流れであります。皆さん方のご意見ご質問等ありましたらよろしくお願いします。特に何もなければ、3回目の地域協議会でも投票で採択するとのお話でしたので、投票結果に基づいた上位11事業で採択してよろしいでしょうか。

●委員全体

異議なし。

●A 委員

この地域づくり推進事業の目的だけでもう一度教えていただけますか。

●事務局

実施要領ではこの事業の趣旨は、地域協議会からの事業提案を基に地域における文化・交流事業・観光事業・協働のまちづくり事業等、特色ある事業（ソフト事業）を推進し、地域の活力増進と連帯感の創出を図ることにより、市全体の活性化に資することを目的とする、となっております。

●A 委員

ソフト事業という言葉が入っておりますが、見どころ案内人の場面において、備品購入というように私には見えるのですが、そうするとこの事業の趣旨にはそぐわないのかなという印象があるのですがいかがでしょうか。

●佐藤副会長

見た目では備品購入という形に見えるかもしれませんが、今現在矢島地区においては町の施設等をめぐる見どころ案内人が発足して進めてきております。その中でひなまつりやこれから進めようとする由利高原鉄道関係の事業等いろいろなイベントとも関連して、矢島地区の案内をやっていくために、見どころ案内人として差別をつけるような、絆纏のようなものと案内時の拡声器等の購入といったことです。

●A 委員

それを使って事業を行う、そういったもののためだということは分かるのですが、今回の事業として少し違うのかなと疑問に思ったのです。

●B 委員

私は日頃観光について関わっておりまして、見どころ案内人の皆さんは一生懸命頑張っておられますし、ありがたいことだと思っております。ただA委員がおっしゃったように、備品購入と書いてしまうと事業ではなくて備品購入という形になってしまいますので、例えば案ですが、ひなめぐりの際に観光客の方々をご案内するためのものとして、ひなめぐりの予算に入れるという手法もあ

るのかなと思ったりはします。

●土田振興課長

見どころ案内人というのは、合併する前の旧矢島町が主体となって発足したボランティア団体です。活動等については非常に熱心に活動されておりますし、その活動の一環としての拡声器なり、そういったものはあったのですがそうとう古くなってしまいましたし、絆纏というのも旧矢島町のマークのもので使っております。そういった活動に支援していこうという趣旨でございます。ですから備品購入といった形での受理に疑問があるということですが、もし仮に許されるとすれば予算の中を組み替えして、300万円の中で備品購入という形で由利本荘市が購入して、それを貸与するという形もとれるかと思えます。そういう場合になれば由利本荘市が事業主体となりますが、そういった方向も予算的には可能になります。ただ、非常に頑張っているボランティア団体への支援という形ですので、備品的なものにはなるかと思えますが、内容とすればそれ程極端に違うものではないのではと事務局では思っております。

●佐藤副会長

事務局からご説明がありましたが、今後の予算措置によっては予算組み替え等も発生するというふうなことも踏まえての、事業採択といった形になるかと思えます。今この備品を買うか買わないかではなく、この事業をどのように進めながらこの矢島地区をどのように活性化させていくか、といったことに観点を置きながら進めていければと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。この点につきまして他の委員の方々からご質問等ございましたらお願いします。

●A 委員

今の振興課長の話ですと、予算組み替えでも可能性があるということは、この事業に挙げなくても別の分野でやれるという意味ですか。

●土田振興課長

この事業の300万円の予算の中での組み替えです。

●A 委員

組み替えとはどういう意味ですか。

●土田振興課長

補助金等で支出する場合は、19節という予算の節項目があるのですが、その中で由利本荘市が事業主体となって備品等を購入してそれを貸与するのだとすれば、300万円の内の備品購入、予算的に言えば18節になりますが、それは300万円の中でのやり取りとなります。

●A 委員

事業主体を見どころ案内人から由利本荘市に変えるということですか。

●土田振興課長

そういう事業が皆さんの中で適当であるということになれば、そういうことも可能かと思えます。目的からして活動を行う上で、今までの備品等も旧矢島町でお金を出してやってきた経緯もあります。そのような形もとれなくはないのかなと思っております。

●A 委員

そうであれば結局観光事業という形で予算要求して、こういう備品を市で準備して貸し出すという、そちらの方がベターではないかと思います。この件のように備品を買ってもよいということになりますとこの次に、一生懸命にボランティア活動をしている団体であれば備品は買ってもよいという前例になると思うのです。そしてそれを認めてもよいのかという話になりますし、趣旨と違ってくるのではと思います。

●佐藤副会長

この件に関連して、委員の皆さんから何かご意見ありませんか。

●C 委員

A 委員からのご指摘があった件につきまして、どれくらいの金額になるかは分かりませんが、300万円の中から組み替えをする等そのようなことでなくても良いのではと思います。言ってみれば見どころ案内人はいろいろな事業の影の盛り立て役者だと思っておりますし、携帯拡声器が何万円して耐用年数何年なのかは分かりませんし、備品とするだけの高価なものなのかも分かりませんが、そのくらいであれば許容範囲でないかなと思います。ましてユニフォームというのもピンからキリまでありますので、10年ももつような絆纏でなくてもよいでしょうし、初年度ということもあってそこまで厳しくなくても私は思います。細かく言えば鮎に関する事業も、わざわざ市の方で稚魚の購入に予算をつけている上に、足りないからさらにこの事業でも挙げるということですから、そうすれば一体いくら稚魚を入れれば足りるのかという話にもなります。せっかく幹事会で選んだものですので、私はよしとすべきではないかなと思いますので発言させていただきました。

●佐藤副会長

他にございませんか。

●B 委員

おそらく A 委員がおっしゃっているのは、金額の多寡ではなくて、備品購入と書いてあることに、これでよいのでしょうかということなのだと思います。ですので、何かの観光事業に組み込んで、その中で必要だから購入するとした方がすっきりするのではないのでしょうか。

●佐藤副会長

事業内容の中に備品購入と謳ってしまったことに問題があるということのご指摘だとすれば、やはり文言を変えながら事業を進めていくという形でどうでしょうという B 委員のお話ですね。

●D 委員

私はまだ二度目の地域協議会で内容を把握しておりませんので、すみませんが少しだけお聞きします。桃野の菜の花というのはどういったものですか。

●伊豆産業課長

菜の花の件についてですが、今現在、昨年作付けした NPO 法人の菜の花ネットワークさんが約 3 畝弱と、株式会社が入れる特区となっておりますので長田建設さんが 3 畝で、約 6 畝の栽培になって今年の春の 5 月頃には咲く予定です。

●D 委員

矢島地域の人が植えて育てているというわけではないのですか。今後そういう方を育てていこうといった考えもあるのでしょうか。

●伊豆産業課長

今計画があるのが、矢島以外の由利本荘市内の法人がもう3畝貸していただきたいということで、いずれ申請を出すところです。矢島の中では、作付けをしたいという方はまだいらっしゃらない状況です。A委員も実行委員になられておりますが、桃野畑地が報道機関に取り上げられましたらお客さんが非常に多く見えたということで、菜の花ネットワークさんと県立大学さんが中心になりまして、実行委員会を立ち上げて一大イベントをしたいということでした。それで矢島の桃野畑地を売り込んでいきたいというのが今回の事業趣旨だと思います。

●A委員

矢島の中でも桃野畑地を見たことがない方はたくさんいらっしゃると思います。桃野地区の畑というのは高原地域ということで、いろいろな良い野菜が栽培できます。地元の方も知らないとなると当然他地域の由利本荘市の方にも知られていないだろうということで、せっかくそこでものを生産しても、どこで生産したものか分からないと今の人にはなかなか買ってもらえないということから、やはりその地域を知っていただくのが大切かなと思います。農業をやるにしても何をやるにしても、地域を知っていただくのが大切だろうということです。あのあたりはあまり土地が良くないのです。そこでせっかく拓いた畑なのですがあまり活用されていないということで、菜の花を植えて景観を良くしながら、菜の花を植えると土が良くなりますので、そういうことから土を肥やして良い野菜を作りましょうという趣旨です。作った野菜を売るためにはまずその地域を見ていただかないといけないということからのご提案です。まず畑を見ていただきたいのですが、ただ畑だけだと人が来ませんし、せっかくきれいな菜の花が咲きますので、それを活用して地域のネームバリューを作りましょうというのが一つの観点です。菜の花を見ていただくというのが観点ではなく、そこで生産する野菜がどうやったら売れるのかなというのを大事にした、菜の花を活用した地域紹介といったことでやっております。矢島の方は植えていないということですが、私も少し植えておりますので、これからだんだん増えていくのかなと期待しております。

●D委員

ありがとうございます。この菜の花と駅前花壇の整備事業にタッグを組んでもらって、駅前に少し菜の花を植えてもらうことはできませんか。そういった考えも持っていただければ、矢島駅前もとてもきれいになりますし、菜の花を植えると土も肥えるということですので、今後また違う花を植えても菜の花のおかげで育っていくような流れで、たいへん良くなるのではないかと思います。もし可能であればそういった働きかけもお願いします。

●A委員

駅前花壇は何月頃に植栽していましたか。

●事務局

7月中旬です。

●A委員

そうだとすればちょうど良いかもしれません。秋口に植えて、ちょうどいいサイクルになるかもしれません。D委員のおっしゃるように、そういった循環をするもの良いと思います。

●事務局

関連して、駅前花壇の整備についてです。由利高原鉄道矢島地域協力会が花壇の管理をしております。

ますが、事務局は矢島総合支所であります。一応除草作業等も行っているのですが、植えた時はよくても時間が経つとなかなか良い状態を保てないという状況です。皆さんから今回投票いただきましたので、ぜひ違った形で展開できればと考えているのですが、まだ漠然とした計画でありますので、皆さんから何か良い案があれば提案していただきたいと思います。先程のD委員のご意見も参考にさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

●D 委員

すみません、八朔祭りについてですが、私も実際参加させていただいております。去年の八朔祭りが終わってからの会議の中で、市の方で予算はつけてもらえないのかと発言をさせていただいたのですが、八朔祭りは神社仏閣に関わることなので市としては予算をつけられないと教えていただきました。この地域づくり推進事業も市からのお金なのでしょうが、こちらについてはよいのでしょうか。

●事務局

その部分は幹事会でも話題になりました。政教分離という観点からすると、補助金という形というのはなかなか好ましくない部分もあるのかもしれませんが、そのお祭りの運営そのものに対する補助となればやはり好ましくない部分も出てくるかと思いますが、それに付随する、お祭りを知ってもらうためのPR活動ですとか、例えば一つお話があったのが、通年おぼこ号の臨時列車を増発してお客さんへの対応をしているのですが、それを無料列車にするというような補助であれば、何か違った形となるのかなと思います。直接的な補助ではないのですが、お祭りはお客さんがいて初めて盛り上がるものだと思いますので、そういった部分でのPR活動等何かに使えればなということです。あくまでも、幹事会では皆さんの投票をメインに考えて事業採択しておりますので、このような形にはなっているのですが、そういった面も含めて事業費を公開するに至らなかったという部分もありますので、何事業かはまだ漠然とした部分があるということをご理解いただきたいと思います。

●D 委員

昨年私、やしま夏まつりの実行委員長をやらせていただきました。それで今回、やしま夏まつりに予算をつけた方がよいのではないかと皆さんにたくさん投票いただき、すごく素晴らしいことだと思います。ですが、去年のやしま夏まつりの実行委員会は、実働していた人間が4～5人でした。予算だけつけて大物歌手を呼んで等、イベント性を高めて催しを増やしていくと、現状の私達だけでは回せません。お金をたくさんいただけるのはたいへん嬉しいことなのですが、実行委員会を矢島の商工会青年部に任せられてやらせていただいているのですが、やはりそれぞれ仕事もあり、他の団体への声かけもできず、そういった状態の昨今となっております。確かにまつりは続けていきたいのですが、やはり負担が大きすぎ、ここで一度止めてもいいのではという意見も実際にあります。10年前であれば商工会青年部もたくさん人がおりまして、商工業者もたくさんいました。JAの青年部であったり、町の職員にも手伝ってもらったりしていました。様々な人達と交流を持ってやってきたのですが、今の矢島町の若い衆を集めて実行委員会を作ってやっていくというやり方は、また無理が生じるような思いがあります。今後この運営していく実行委員会のあり方を少し考えていって、例えば地域協議会の皆さんのご協力を仰ぎながら、やしま夏まつりを成功に導いていきたいという願いをもしかすればするかもしれません。このように予算がついてしまうとそういったことになるかもしれませんが、いかがでしょうか。

●E 委員

私達もそういったことの心配はしております。ですが事業主体が実行委員会となっておりますので、その会からそういった声が上がらないと、我々がそうした方がよいのではといった議論にはなりま

せんので、D 委員が今おっしゃったようにこういった地域協議会がせっかくありますし、実行委員会の形を見直して欲しいということになれば、それをどこが受けるかは別にしても見直していければいいのではないかと思います。一応 11 事業を案として採択して予算の割り振りをするのでしょうか、今の件のように事業主体の方達の実施形態の問題もあります。予算をもらわないよりはもらった方がよいということだとすればそれはそれで良いのですが、そういった段取りはどうなっているのでしょうか。300 万円があっても、11 事業がこなせないという場面も生じるかもしれませんし、逆に余るということがあるかと思うのですが、そのあたりはどうなるのでしょうか。

●佐藤副会長

皆さんからの投票という形で上位 11 事業を採択して、今協議会でそれが認められれば事業の進行に入るわけですが、その段階で各事業主体の方々と事務局の方で具体的な事業計画書と予算額を出していただきながら詰めていくという流れになるかと思います。

●事務局

今 E 委員がおっしゃったのは、予算が余ったらどうなるのかということでしょうか。

●E 委員

おそらく要望だけを集めれば予算が足りなくなると想像するのですが、事業主体の事情によってはそういったことも考えられますので、再度ヒアリングの結果で来年度何をやるのかを最終決定するという段取りになるのか、それとも事務局や協議会で事業採択はしたので、あとは 300 万円を振り分けてこの会としての関与はしないということになるのか、ということです。

●事務局

いずれ 11 事業で、300 万円の枠を超えるということはありません。その中で予算を調整して、配分するという形にはなります。仮に 11 事業の中で実施事業主体が定まらず、実施できず見合わせるということになって予算が余るのだとすれば、決定ではありませんが、幹事会では今回の 11 事業から漏れた分の中で時間的余裕があれば漏れたものも拾っていききたいという声もありました。そのあたりも含めて、今日この協議会で決定していただければと思います。事業費云々の部分は聞いてみなければなかなか分からない部分がありますが、もし予算が余った場合の対処方法も含めて検討していただきたいと思います。

●D 委員

初めて私がこの地域協議会に出席した際に、300 万円の予算がつくので皆さんで考えましょうというお話で、そして皆さん持ち帰って考えてこれだけの提案が出て、皆さん矢島町のことをたいへん思っていて素晴らしいなと思っております。が、観光や文化交流、環境美化もたいへん大切なのですが、少し子供達のことと考えて欲しいと前に発言させていただきました。やしま夏まつりや八朔祭り、おぼこ号に子供達を乗せてのクリスマス会等、様々なイベントをやっていただいている、子供達もたいへん喜んでいてと思います。子供達に関してはもう一押ししていただければとても嬉しいです。11 事業の中でも観光分野が 5 事業程度ありまして、皆さん矢島町を他の方々にアピールしたいと思っておられるのもよいのですが、私個人としては外の方々にアピールする以前に、もっと地元の方々のクオリティを上げていきたいと考えます。例えば先程のやしま夏まつりの件ですと、実行委員会の人間 4～5 人のクオリティでなんとかやっているものだと思います。負担もかかります。良い所は皆さんに知っていただいて、人材育成等そういった方に目を向けていただきたいと思います。そこで私は、スキー場で子供達が一番遊べる環境を整備して、それが駅前であつたりおぼこ号であつたり日新館であつたり青少年ホームであつたり、もっと喜んでもらえるよ

うな場所を作りたいといった意味を込めて、今回私はいろいろな提案を出させていただきました。やはり観光分野が多いのですが、地元の方々を発展させながら観光に目を向けていただければ、もっと良くなるのではないかと思います。矢島見どころ案内人の方々もたいへん頑張っている姿を私も見ておりますが、そういった所に子供達をつけて、矢島の見どころを案内できるような子供達を育てていきたいと考えます。ですので、例えば見どころ案内人の事業内容の部分に、矢島の見どころを案内できる子供を育てる、といったように、今は年配の方が多いので次の世代のことも考えていただければと思います。

●佐藤副会長

貴重なご意見ありがとうございます。決して子供達の将来を否定するようなことは考えておりませんが、今現在活性化のためにどのようなことを行えば良いかということで、この事業がスタートしていくことになります。来年、再来年とこの事業は続いていくと思います。その中で今D委員がおっしゃったような意見も含めて、詰めていければと思いますので、ご理解の程よろしく願います。他に皆さんから何かございませんか。もしないようであれば、皆さんから投票いただいたこの11事業で22年度をスタートしたいと思いますよろしくお願いします。

●委員全体

はい。

●佐藤副会長

ありがとうございました。この11事業で22年度の地域づくり推進事業に取り組んでいくこととしたいと思います。

●土田振興課長

それでは皆さんからご承認いただきましたので、そのように進めさせていただきたいと思います。ただ、先程お話ありましたとおり、内容につきまして具体的な事業計画や予算額等は、年度内には終われるかと思えます。次の地域協議会は新年度当初になるか、22年度の市の予算等の説明機会があるとするれば、とりあえずはその機会がありましても、4月頃皆さんに事業計画等を提示できるのではないかと考えております。

●佐藤副会長

それでは第4回地域協議会の協議については、これをもちまして終了したいと思います。なお、その他として皆さんに事務局から一つご説明がありますのでよろしくお願いします。

●土田振興課長

まずは概要をご説明いたします。由利高原鉄道の件ですが、今年由利高原鉄道が発足して25周年となります。それを記念してイベント事業をやっていこうということで、鳥海山ろく線運営促進連絡協議会等で昨年末に臨時総会等を開催しまして、事業を検討したところです。その中でイベント事業という形で、一つが、由利高原鉄道が子吉川に並行して走っているということもありまして、沿線にこいのぼりを泳がせようという計画があります。もう一つが、それぞれ第三セクター等でやっている鉄道に対しまして、いろいろ応援団といったものが組織されておりますので、そういったものを参考にしながら、由利高原鉄道においても地域の沿線の方や市民の方の支援はもちろんですが、それ以外の他地域、県外も含めての方々から、サポートをいただくという計画です。そういった形で今回、アシストクラブという組織を立ち上げていこうと、先週土曜日に会議を開催いたしました。それぞれいろいろな団体等に委員をお願いして設立に向けての会議を行いました、その

場で設立を委員の皆さんに承認いただきました。今回その内容について、地域協議会の皆さんに情報として、あるいは地域協議会の皆さん方にもいろいろと願いますので、担当の方からご説明いたしますのでよろしくお願いします。

●事務局

課長からもお話ししましたとおり、25周年を記念して鳥海山ろく各駅、各地に25周年とかけてこいのぼり25組250匹を泳がせようと計画しております。各駅に2組、それと例えば西滝沢の水辺プラザ、旧鮎川小学校のグラウンドの周りや前郷駅、日新館の周辺にこいのぼりを泳がせたいというのが趣旨です。詳細は資料に記載しておりますが、先日この実行協議会の設立をおぼこ号の車内にて開催いたしました。鳥海山ろく線運営促進連絡協議会も正木会長が会長となっておりますが、その会を母体として、資料にあります協力団体、鮎の風実行委員会、西滝沢水辺子ども協議会、等々各地域協議会からも協力を得ながら、来年だけではなく25周年を期に継続していこうということで先日決定しております。250匹と数も膨大な量でありまして、由利本荘市内だけでは対応できるものではないと思っておりますし、広く全国に向けていろいろなネットワークを活用しながら、寄贈をお願いしていかなければならないと思っております。今月24日に在京矢島会の新年懇親会がありますが、その際もこの企画をPRして、広く全国から集めたいと思っておりますので、地域協議会の委員の皆さんにおかれましても眠っているこいのぼりがありましたら、ぜひ寄贈をお願いしたいと思います。引き続いて由利高原鉄道のアシストクラブについてです。これは先程の実行協議会とは別で、こちらも在京矢島会の席でPRはしていくというお話なのですが、資料の年会費の部分をご覧いただければ分かりやすいと思いますが、ダイヤモンド・プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズというセクションに分けて年会費として協賛金をいただき、それに対する会員の特権として例えば各駅の名誉駅長や枕木オーナーといったサービスを実施していきたいということです。正木会長をはじめ、由利高原鉄道の応援大使、NPOみちのく鉄道応援団理事の高橋敏明さんに発起人となっていただいて、こういったものにも取り組んでいこうということになっております。もし興味がありましたら、ぜひ皆さんにも会員になっていただいて、鳥海山ろく線の運営にご協力いただければと思いますのでよろしくお願いします。最後になりますが、1月15日の夕方だったと思いますがABSにおいて、由利高原鉄道・鳥海山ろく線賛歌ということで『慕情 子吉川』という応援歌を、発起人であります由利高原鉄道応援大使の佐藤和博さんという方に提案いただいて作詞、それと作曲に川崎勉さんとありますが、この方も由利高原鉄道の応援大使でありまして、タッグを組んでいただいて作っていただきました。今後CD発売等も考えているというお話でして、鳥海山ろく線を広く全国に知っていただければという思いも込めて、こういった応援歌等ご協力いただいております。ご興味がありましたらぜひご購入いただいて、鳥海山ろく線の運営に一役買っていただければと思いますのでよろしくお願いします。

●佐藤副会長

25周年を記念して子吉川沿線にこいのぼりを泳がせたいということで、皆さんのお宅に眠っているこいのぼりがありましたら寄贈をお願いしたいという案でございます。アシストクラブということで、由利高原鉄道を応援しようということを狙いとして、各年会費に沿って協賛をいただきたいということを、由利高原鉄道で応募するそうです。その節は皆さんの方からもご協力願えればご期待を込めてご説明させていただきました。これにつきまして、何かご質問はございますか。今由利高原鉄道でも再生計画ということで、赤字を減らそうと努力しております。従業員の方々もいろいろな活動をしなが収益を上げようと努力している姿が見えますので、できればご協力をよろしくお願いします。

●事務局

今回地域づくり推進事業として採択いただいた11事業の中にも、烏海山ろく線を利用した交流事業といったものもありますし、こういった事業にも活用させていただきたい、ぜひ地域の活性化に結びつけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。それと11事業を採択いただいて今後ヒアリング等によって事業費を調整していくというお話でしたが、計画が取りまとまった段階で、次回の地域協議会を待たずにできるだけ早く皆さんの方にも決定された内容を通知したいと考えておりますのでよろしくお願いします。

●佐藤副会長

他に何かございませんか。

●D 委員

こいのぼりの件ですが、由利本荘市内では東由利に素晴らしい場所があるのは皆さんご存じでしょうか。4月だったかゴールデンウィーク前にはやり始めるのですが、ちょうど桜が咲く頃です。それで川の上で公園があってこいのぼりがあって、私が見た中で一度だけ雪が降っていた時もありました。雪と桜とこいのぼりが3つ一度に見られた時がありました。東由利ではそういった景観の良い所にこいのぼりを泳がせていました。おぼこ号も矢島町の一番良い所を探してはいるのでしょうけど、ぜひそのような所に泳がせていただけるようよろしくお願いします。

●事務局

各駅の他に各地域でこいのぼりを泳がせる候補地を挙げておりますが、場所についてはまだ確定しておりませんので、ここは良いというビューポイントがありましたら教えていただきたいですし、ぜひこの事業にもご協力いただければ助かります。

●佐藤副会長

話によると、西滝沢や黒沢といった各鉄橋にもまたいでこいのぼりを泳がせたいといったような計画もしているようです。他に何かございませんか。ないようであればこれをもちまして第4回目の地域協議会を終了させていただきます。皆様のご協力を得ながら各種事業取り組んでいければと思いますので、ご協力よろしくお願いします。本日はたいへんありがとうございました。

5. その他

6. 閉会（16：20）